

2022.2.3 発行

エレガーさんからの手紙

2年5組担任

2010年にウクライナを旅した。当時、キエフ大学で友人が日本語を教えていた。彼の研究室を訪れた時にエレガーさんという日本語の堪能な学生を紹介された。彼女は私が日本の高校で国語を教えていると知り、いろいろなことを質問した。彼女のレベルは高く、その場では答えられないこともあり、日本に帰ってから数回連絡を取った。

エレガーさんは、お父さんの亡くなった後に、文章を送ってくれた。彼女のお父さんは私の父と同じぐらいの年齢だった。私も父が永眠したころだった。父の若い頃の話を書くことは少なかった私だが、「人生とは何か」について考えさせられる文章だった。(これを日本語で書いているエレガーさんは凄い。)

トーリャ君は空を飛んだ

トーリャ君は七歳の時に家族で物事を決める一番中心の男になった。父親は戦争へ行って1か月後に亡くなった。弟と母親が残った。長男だったトーリャ君は、中心になるしかなかった。そのうちキエフはドイツ軍に占領され、空爆が続けられ、食べるものを手に入れるのが難しくなったので、親戚が住んでいる田舎に移った。田舎はトーリャ君にとってとてもよかった。友達がたくさんいて、外で遊ぶ時間も長くなった。週に3回、牛を散歩させる仕事もしていた。まだ子どもだったが、できることは全部していた。牛は20頭で村のもので、みんなを食べさせる宝物だった。その牛からしぼる牛乳、その牛乳からできるチーズ、そして畑で取れるジャガイモや野菜をみんなで食べて生きていた。

空を飛ぶことを夢見たトーリャ君

1945年5月9日、11歳になっていたトーリャ君はちょうど牛を散歩させていた。牛はのんびりと草を食べながら野原を歩いていて、トーリャ君は空を眺めていた。空を眺めて考えるのが大好きだった。その空に自分の夢を映し出していた。いつか大きくなったらあの空を飛ぶことを夢見ていた。

その日、空に急に飛行機が現れた。遠いからどこの飛行機か分からなかったのでちょっと怖かった。だがそれはソ連の飛行機だった。そしてその飛行機から急にトーリャ君と牛がいる地面にビラが降ってきた。ビラをつかんで見ると戦争が終わったと書いてあった。

その喜びを味わったトーリャは牛を放っておいて一所懸命村の方に走った。みんなに知らせるために。走りながら自分に誓った。大きくなったら絶対に空を飛ぶパイロットになろう。パイロットは青い空を飛ぶとても自由な仕事だし、みんなにこんなにすばらしいニュースを知らせることが出来る人だと思ったからだ。小さいトーリャは戦争が大嫌いだった。戦争で父親を亡くし、住んでいたキエフの家は空爆でなくなり、一緒に遊んでいた友達もすべて奪われたからだ。

6年後にトーリャは軍隊のパイロット学校に入学した。250回以上飛行機に乗って、パラシュートから何百回も飛び降りた。確かに空から見る地面はきれいだった。そしてパイロットは確かに自由だった。

パイロットとしての挫折—出版社に入ったトーリャ君

しかし、20歳をすぎたトーリャが卒業する年に、ソ連の最高権力者フルシチョフはソ連の軍隊を減らした。そのせいでトーリャも急に職を失った。手元には「パイロット手帳」と「満期修了書」だけが残った。そしていろいろ考えた。空を見ること以外に何が好きかを一番に考えた。トーリャは空と同じくらい、本を読むことが好きだった。「本はいつでもみんなが読むものだから、絶対に仕事もある」と考えて、出版社に入った。トーリャは間違っていないかった。パイロットが減らされたあとでも、人は本を読み続けていた。

トーリャは40年以上同じ出版社に勤め、一番下からほぼ一番上までのぼった。その間にいろいろな本を出して、いろいろな本を読んだ。それでも、空を眺めるといつも少し心残りを感じた。飛行機に乗るとうらやましい思いでパイロットのキャビンを眺めていた。「僕も前はその席に座れたんだ」と半分がっかり半分喜びながら考えていた。

その当時のソ連では趣味でパイロットの資格を取ることにはありえないことだったので、趣味として生かすことはできなかった。だが空を眺めることはいつでもできた。それなら誰にも奪われることがなかった。彼はパイロットの物語を読むこともすごく好きだった。

私が小さい時にもらった本の中でも、特に多かったのはサン = テグジュペリだった。サン=テグジュペリは作家であるだけでなく、元々パイロットだった。そしてトーリャと呼ばれていた子は、私の亡くなった父親だった。

宝物箱

家でものを整理していたら、父の「飛行ノート」が出てきた。ちらっと見て捨てられなかった。自分の宝物箱に入れた。その中には戦争でなくなって一度も会ってない仕立て屋だったおじいちゃんの鋏(はさみ)、16歳になった時におばあちゃんからもらったピアス、最初の留学に行った時にみんなからもらった手紙、そして2年前に出た私の最初のウクライナ語の本が入っている。

父のノートを見て、父から大きな夢を見ることを受け継いだと思う。そして、自分の好きなことを、自分の夢を現実と結びつけることのできる力。このノートを見て、そして空を見て自分の力で「飛ぶことを」教えてもらった気がした。

行事予定 2月14(月)短縮授業・大掃除 15(火)生徒休業日 16日(水)特色選抜入試
18日(金)短縮授業・大掃除・卒業式式場設営 22日(火)~3月2日(水)学年末考査
28日(月)学年末考査・卒業式予行 3月1日(火)卒業式